

教 育 研 究 業 績

2019年5月1日

氏名 小橋 玲治

学位：博士（文学）

研 究 分 野	研 究 内 容 の キ ー ワ ー ド	
比較文学、日本近代文学	女性教師表象、ガヴァネス	
主要担当授業科目	近現代文学研究、演習（近現代文学Ⅱ）、日本文学史概論（近現代）、文化マネジメント論・実習、出版文化論、メディア文化論	
教 育 上 の 能 力 に 関 す る 事 項		
事項	年月日	概要
1 教育方法の実践例 学生同士でのレポートの相互評価による、「書く技術」の研鑽	2016年4月1日～現在	レポートについてはどの授業でも受講者全員による相互評価を取り入れており、「書く技術」を一定以上のレベルにまで引き上げられるよう努めている。
2 作成した教科書、教材 自身の論文、発表用PPT等を講義用資料として編集し直し使用		実際に完成したものを元に、アカデミック・ライティングを兼ねた講義を行っている。
3 教育上の能力に関する大学等の評価		
4 実務の経験を有する者についての特記事項 海外での調査経験	2010年2月28日～3月14日、2018年3月5～15日	大学より助成を得て大英図書館にて文献調査を行った。科研費によって、ウェールズでも調査を行い、海外での発表や論文として結実している。また、学术论文8の執筆に当たっては、宮城県や大阪市まで現地調査に行くなど、作品のみならずフィールドワーク的な研究も行っている。
5 その他		
職 務 上 の 実 績 に 関 す る 事 項		
事項	年月日	概要
1 資格、免許 中学校教諭専修免許状（国語） 高等学校教諭専修免許状（国語）	2013年2月16日	
2 特許等		
3 実務の経験を有する者についての特記事項		
4 その他 ①甲南高等学校・中学校 ②舞鶴工業高等専門学校 ③大阪大学	2013年4月1日～2016年3月31日 2013年4月1日～2013年9月30日 2016年4月1日～2018年3月31日	高校では理系クラスの学生に対し現代文を二年間、高校一年の漢文を、中学校一年の現代文を、それぞれ一年間担当した。文系クラスの大学受験用の特講も担当。 サバティカルの教員の代理として、二年生及び大学編入生向けの英語を担当した。淡々と講義するだけでなく、ミッフィーが教科書の単元となっていた際には、その色彩がピエト・モンドリアンの影響を受けていること、同じくモンドリアンの影響を受けてイヴ・サンローランが世に出てきたこと等、比較文学的な解説も試みた。 博士の学位取得以降、二年間講義を担当。共通教育授業として、2016年度は「比較文学入門」を、2017年度は「西洋の文学」を担当。学部・大学院では比較文学講義（大学院は比較文学特殊講義）として、日本近代文学に見られる女性教師表象についての講義を担当。

④京都外国語大学	2016年4月1日～現在	英米語学科の三・四年生の卒業論文・研究指導ゼミを担当。2016年度は四年生のみ6人が受講、全員を卒業に導く。また、学内向けのゼミ代表者によるポスター発表会では、私が指導した学生のポスターが高い評価を受けた。2017年度は四年生2人、三年生3人を、2018年度は四年生2人、二年生2人を指導。
----------	--------------	---

研 究 業 績 等 に 関 する 事 項

著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
(著書) 1 武田佐知子編『交錯する知一衣装・信仰・女性一』	共	2014年3月	思文閣出版	元大阪大学副学長・武田佐知子氏(服飾史)の退職記念に刊行された本(氏が代表を務めた基盤研究(C)「異性装の比較文化史」(2012～15)に、研究協力者として参加)。「IV章 女性」に「小栗風葉『青春』に見る男性領域への侵犯と女性教師の周縁化」掲載。24頁(pp.426-449)
(学術論文) 1 「「墮落女学生」の嫌う女教師—明治20年代と30年代の言説の差異」 2 「河竹黙阿弥『女書生』に見る「三重の変身」の意味—シェイクスピアの異性装との比較を通して」(査読有) 3 「「三重の変身」という異性装—河竹黙阿弥『女書生』」 4 The “Japanized” Translation of <i>Jane Eyre</i> (「『ジェーン・エア』の「日本化」翻訳」) 5 「日英の雑誌に見られる女性教師表象の比較」 6 「日本から海を渡った女教師たちとその表象」	単 単 単 単 単	2008年3月 2009年3月 2010年3月 2011年3月 2013年3月 2013年3月	2007年度大阪大学大学院文学研究科共同研究『東アジアの生活文化とジェンダー—比較文化論的アプローチ』 pp.59-64 『阪大比較文学』第6号 pp.127-141 国際シンポジウム2010「着衣する身体と異性装—一日・タイの比較—」報告書 (2006-2009年度科学研究費基盤研究(A)「着衣する身体と女性の周縁化」代表武田佐知子) pp.36-41 大阪大学・チューラーロンコーン大学・国際ワークショップ「日本・対相互交流の文学研究のために」報告・論文集 pp.14-21 独立行政法人日本学術振興会「頭脳循環を加速する若手研究者戦略的海外派遣プログラム」「アジアをめぐる比較芸術・デザイン学研究—日英間に広がる21世紀の地平—」研究報告書 pp.100-110 卓越した大学院拠点形成支援補助金「コンフリクトの人文国際研究教育拠点」セ	明治20年代における女教師に対する言説の差異を紹介した上で、明治30年代の小説である小杉天外『魔風恋風』や小栗風葉『青春』を特に取り上げることで、その中に登場する女性教師の描かれ方がそれまでとは異なることを検証した。 河竹黙阿弥『女書生』は、男性の役者が扮する女性が、役の上でさらに男性に扮するという「三重の変身」を伴う構造で、初演当時のシェイクスピア作『十二夜』などにおいても同様である。両者を比較することにより、『女書生』の「三重の変身」の特質について考察した。 上記学術論文2で取り上げた作品を、特に異性装という観点から考察し、異性装が実際にこの作品の中でどのように機能しているのか、そして、なぜ主人公は自らの性とは異なる性の服装を選択することになったのか、同作における異性装の有り様を分析した。 日本における『ジェーン・エア』の初期翻訳について、初訳である水谷不倒「理想佳人」と、深澤由次郎の部分訳である「落魄」を対象とし、両者の翻訳観を類推し、その差異を考察した。 同プロジェクトにおいて特任研究員として得た成果として、19世紀英国にて花開いた雑誌文化とそこに描かれた戯画と、日本のそれとの比較を行った。特に、 <i>Review of Reviews</i> に掲載されたものが日本の同時期の漫画雑誌にも転載されたという事実を発掘した。 下記その他2の発表で扱った、植民地へ赴任する女性教師の問題を発展させ、実際に海外派遣された河原操子や安井てつ(つ)の事例と、海外に渡る女性教師が登場する、同時期に発表された小説における典型的な事例との比較考察を行った。

				ミナー第2回「世紀転換期の日英における移動と衝突—諜報と教育を中心に」報告書 pp.49-65 『待兼山論叢』第47号(文学篇) pp.55-73	
7 「清子は蒙古王の家庭教師となる一大月隆『臥龍梅』(1906年)に見る女性家庭教師表象の一側面」(査読有)	単	2013年12月			大月隆『臥龍梅』に登場する主人公を、海を渡る女性としては、上記学術論文6の中で考察したような作品群とは異なり、海外の宮中で家庭教師として職を得る、当時において珍しいタイプであると規定し、同時代の清水紫琴「移民学園」や、C. Brontëの <i>Villette</i> といった作品との比較を行った。
8 「「祭祀」としての女性教師殉職—二人の女性教師の死の意味」(査読有)	単	2015年7月		『比較文化研究』第117号 pp.27-39	1920年代と30年代に、ともに子どもをかばって亡くなった二人の女性教師の殉職事件を事例に、どちらも地方での出来事でありながら日本全国へと伝播していくという共通の現象や、その伝播の有り様の相異を、背景とする時代の趨勢を踏まえて比較考察を行った。
9 「明治期における女性教師の「連帯」と「孤独」—小笠原白也『女教師』(1909年)を中心に—」	単	2015年10月		『日本研究論集』第12号 pp.17-36	小笠原白也という、大阪で校長を務めていた経験もある、今では顧みられることのない作家の『女教師』という作品を取り上げ、その中に見られる女性教師の抱える「連帯」と「孤独」という問題を浮き彫りにした。
10 「日本近代における女性教師表象の変容と展開」(博士論文)	単	2015年12月		大阪大学大学院文学研究科 263頁	これまでの近代以降における女性教師表象研究を通史として構成し直し、博士論文として大阪大学に提出した。明治期の女性への公教育の誕生から、戦前に至るまでの大きなパースペクティブとして、女性教師を取り巻いていた視線及びその顕現としての表象について考察を行った。
11 「織田作之助と南方派遣日本語教員—「旅への誘い」から「姉妹」へ—」(査読有)	単	2017年6月		『語文』第108輯 pp.64-76	太平洋戦争中にも学術論文6に見られたような教師の海外派遣が行われており、それを小説として作品化したのが織田作之助であった。作中に登場する、ボードレールの「旅への誘い」に曲がつけられたレコードを手掛かりに、織田の「旅への誘い」から「姉妹」への改作について分析を行った。
12 「Mrs. Henry Wood, <i>East Lynne</i> から伊原青々園「恋の闇」「子煩悩」への翻案—「新講話」という理想と限界—」	単	2017年12月		『待兼山論叢』第51号(文学篇) pp.21-41	下記その他4の発表で取り上げた作品について、翻案者である伊原青々園が連載紙上で提唱した「新講話」という概念から問い直し、なぜ「新講話」のために <i>East Lynne</i> という作品を選択したのか、そしてそのためにどのような齟齬に陥っているのか、考察を行った。
13 From Literary Works to Comics in Japan: The case of the <i>Shonen-sencho</i> (1958) by Fujiko F. Fujio (「文学作品から漫画へ—藤子・F・不二雄の「少年船長」(1958年)の場合—」(査読有))	単	2018年度 (Web公開のため日程不明)		ANNALS OF "DIMITRIE CANTEMIR" CHRISTIAN UNIVERSITY LINGUISTICS, LITERATURE AND METHODOLOGY OF TEACHING VOLUME XVII (http://aflls.ucdc.ro/doc/Analele%20LLS%20nr.%201-2017.pdf) pp.22-33	藤子・F・不二雄の「少年船長」という初期作品は、日本ではほとんど紹介されていない19世紀イギリスの海洋冒険作家の草分け、フレデリック・マリアット原作である。藤子がどうやってこの作家及び作品の知識を得たのか、翻訳以外の経路の可能性の検討も行い、また、その改作の様を具体的に検討した。
14 「E. P. ヒュースによる女性への登山奨励の余波—タイへの影響も視野に」 (その他)	単	2019年内		タイ国日本研究国際シンポジウム2018	イギリスの女性教育者 E. P. ヒュースが教育視察のための滞日時にに行った登山に関する講演に関して、それが日本において影響を及ぼしたのかどうか、検討を行った。
1 「河竹黙阿弥『女書生』に見る「三重の変身」の意味—シェイクスピアの異性装との比較を通して—」	単	2008年11月		日本比較文学会第44回関西大会(富山大学)	学術論文2の基になった発表。
2 「小栗風葉『青春』に見られる女学生の二重の疎外—「植民地」に赴任する「女教師」の意味—」	単	2009年6月		日本比較文学会第71回全国大会(大阪大学)	著書1収録の論文の基になった発表。
3 「明治の女性家庭教師表象—内田魯庵と水谷不倒の間の懸隔—」	単	2011年11月		日本比較文学会第47回関西大会(大阪大学)	管見では家庭教師に相当する「内教師」という語を『罪と罰』の翻訳において初めて使用した内田魯庵と、『ジューン・エア』の日本初訳の中で同表記を用いた水谷不倒を取り上げ、両作家の自作における家庭教師表象の違いから、両者の作家としての力量の懸隔について考察した。
4 「Mrs. Henry Wood, <i>East Lynne</i> の翻案における改変—伊原青々園『恋	単	2012年6月		日本比較文学会第74回全国大会	学術論文12の基になった発表。19世紀後半のイギリスで大流行した <i>East Lynne</i> という作品が

の闇』(1905)、『子煩悩』(1906)における妻/母としての主人公			(大正大学)	明治期の日本において二度も翻案されているという事実に鑑み、最初の翻案である織田純一郎の『いさ子』(1893年)を手掛かりに、後の伊原青々園の翻案『恋の闇』『子煩悩』の分析を行った。
5 Nagai Kafu's <i>Jigoku no Hana</i> (1902) in the light of the governess novel (「ガヴァネス・ノヴェル」という観点からの永井荷風『地獄の花』(1902年))	単	2013年10月	Pacific Ancient and Modern Language Association 2012 (Seattle University, the United States)	永井荷風は最初期の作品である『地獄の花』で、特にヨーロッパにおけるブルジョワ以上の階級の家庭では一般的であり、故に小説にもよく登場した住み込みの家庭教師 (governess) という慣習を取り入れており、同作を日本における governess novel として捉え直すことが可能か、検討を行った。
6 The meanings of two School-mistresses' death in prewar Japan (「戦前の日本における2つの女性教師の死の意味」)	単	2014年2月	Perception of Life and Death: Japan and India (Delhi University, India)	学術論文8の基になった発表。
7 「有島武郎「一房の葡萄」の言説空間—大正十一年という磁場—」	単	2014年11月	2014年度日本近代文学会関西支部秋季大会(京都教育大学)	有島武郎の「一房の葡萄」を取り上げ、同作の単行本化が下記学会発表・海外・査読有2で取り上げた小野訓導殉職事件とほぼ同時期であったことに鑑み、子どもから好意を向けられる女性教師を成立させるための概念としての「母性」という新語と、女性教師との結びつきについて検討を行った。
8 「石川啄木の女性教師表象の「新しさ」—「雲は天才である」(1906年)を中心に—」	単	2014年11月	日本比較文学会第50回関西大会(広島大学)	自身も代用教員の経験があり、故に自身の小説に同僚であった女性教師をモデルとして登場させた石川啄木の小説作品、中でも「雲は天才である」を中心に、彼の女性教師表象が、それまでの否定的な言説に囚われない新しいものであったと位置付けた。
9 Was it possible for Japanese during the Meiji Era to create a 'Governess Novel' ? (「明治期の日本人に「ガヴァネス・ノベル」を作ることは可能であったか?」)	単	2016年7月	21st World Congress of the International Comparative Literature Association (University of Vienna, Austria)	比較文学会の国際大会であり、ウィーン大学で行われた ICCLA での発表。governess に馴染みのあるヨーロッパでの大会において、日本にもそのような表象があることを初めて発表した。
10 How to adapt to the comic from the literary work in Japan?: The case of <i>the Juvenile Captain</i> (1958) by Fujiko F. Fujio (日本における文学作品の漫画化の実例—藤子・F・不二雄の「少年船長」(1958年)の場合—)	単	2016年9月	4th Japanese Studies Conference ("Dimitrie Cantemir" Christian University, Romania)	学術論文13の基となった発表。
11 Yasui Tetsu and Her Trans-national Network (安井てつとトランスナショナル・ネットワーク)	単	2018年8月	12th IFRWH Conference (Simon Fraser University, Canada)	自身が代表の科研費により同年3月に英国ウェールズで行った調査を基にした成果報告としての口頭発表。
12 E. P. ヒュースによる女性への登山奨励の余波—タイへの影響も視野に	単	2018年8月	タイ国日本研究国際シンポジウム2018 (Chulalongkorn University, Thailand)	学術論文14の基となった発表。上記その他11と同じく、自身が代表の科研費により同年5月に長野県で行った調査を基にした成果報告としての口頭発表。

(注) 「研究業績等に関する事項」には、書類の作成時において未発表のものを記入しないこと。